

fff サンフレンズだより

一番ヶ瀬初代理事長に
感謝をこめて



＜「サンフレンズ設立を祝う集い」でのお姿＞

サンフレンズの初代理事長一番ヶ瀬康子先生が、2012年9月5日にご逝去されました。

サンフレンズの母体である市民団体の活動に様々なご支援をいただきました。また、法人設立の準備段階から関わられ、1994年4月の法人設立から8年間、理事長を務めて下さいました。今回、先生が毎年書かれていた事業計画書の巻頭文から、1998年度の一部をご紹介します。「特にサンフレンズの場合には、何よりも利用者中心、そして職員、理事、ボランティアがお互いに“壁”を低くしての協力をなしつつ、それぞれの役割を果たしていくという在り方が特徴であり、その意味での新しい社会福祉の歴史の1ページを創り出したいと願っています」、「サンフレンズのもとで運営されているすべての施設が、どんな状況が来ようと、より良い介護を常に創造することがめざされる日々であることを願っています」と、理事長としての願いを明らかにされています。これらは今も大切にされるものであり、受け継いでいくべきものと確信しています。

法人の役員・職員一同、心よりご冥福をお祈りいたします。

《一番ヶ瀬康子先生の略歴》

日本女子大学名誉教授、社会福祉学専攻、人間社会学部の初代学部長、理事を務められた。経済学博士。3つの大学で教授を歴任。日本の社会福祉



No.68 2012.11.21
発行：社会福祉法人 サンフレンズ
編集：法人本部 事務局
〒167-0023
杉並区上井草3-33-10
03-3394-9833

学をリード。また、日本学術会議会員として女性研究者の環境改善に尽力された。著書は『アメリカ社会福祉発達史』など多数。

先生に直接接してきた方からお言葉を頂きました。

「私で役に立つなら何でもしますよ。老人問題の話をしに行く、というのはどう?」。高校時代社会科を教わった先生を、山崎眞美さんと二人で訪ね、「杉並・老後を良くする会」は出発した。

以来40年! 専門家主導型でなく一会員としてお力添えを頂いた。人生で一番の恩師に限りない感謝の思い出から選ぶなら、福祉で最も大切なのは“想像力”ですよね、と私が言ったとき大きく頷いて下さったお顔、である。

サンフレンズ元理事 白川すみ子

30年近く「友愛の灯協会」の監事として、ご尽力ご支援いただいた事、改めて今一度お目にかかり心から御礼申し上げたい気持ちでいっぱいです。事業運営に行き詰った時、新しい事業をとり入れるか否か迷った時、私どもの相談に応え、誠に明快に道筋を示し励まして下さった先生のおかげで、舵取りを誤ることなく歩んでこられた事は忘れられません。感謝をこめてご冥福をお祈りいたします。

サンフレンズ相談役 岡本波津子

法人設立準備委員長・初代理事長として9年間重責を担って下さり本当に有難うございました。国内初の住民立の法人です。緊急事態発生時には毅然として先頭に立ち的確な助言と共に解決の道を示された事。また職員に対しては判り易い表現で「福祉と文化」の心を説き、利用者に接する心構えを語られた事。鮮やかに思い出されます。その教訓の数々が今後の法人の行手を明るく照らすことでしょう。 サンフレンズ理事 河 周子

『和泉大正乙女樂團』が 念願のテレビ出演！！

「もっと上手になって、いつかテレビ出演したいね。」これが、和泉ふれあいの家の大正琴クラブ、ステージネーム『和泉大正乙女樂團』の目標でした。それが今秋、ついに実現します。

『和泉大正乙女樂團』の結成は平成 18 年。きっかけは「最近暇なのよね。」というご利用者の吹き。「それじゃ大正琴でもやってみようか？」から始まりました。時にメンバーは僅か 3 人。簡単な曲を何曲か弾けるようになると、練習の成果を披露するためにミニ演奏会を敢行。それを聴いて参加する仲間が現れ、また演奏会を開くと、更に参加者が増え…。人が人を、メロディーがメロディーを呼び、現在は週 5 日開催、メンバーは 23 人、これまで演奏した曲は 300 曲超までとなりました。とは言え、ほとんどのご利用者が和泉ふれあいの家に通い始めてから大正琴に出会った訳で、謂わば「80 の手習い」なのです。

最近の対外活動としては、他の高齢者施設への出張演奏会をはじめ、一昨年にはセシオンホールという大舞台での演奏会も経験しています。そして、大正琴メーカーのナルダン楽器の岩田社長の



＜NHK 放映に向け 2 回も取材を受けました＞
ご好意で、その様子がインターネットでも流れました。また、昨年からは月 2 回の公開講座も開始し、和泉ふれあいの家のご利用者だけでなく、地域の方も参加されるようになってきました。そのような時にグッドタイミングで、NHK の取材が舞い込んできたという訳です。まさに順風満帆…。勢いに乗って、次の目標は「紅白歌合戦出演」にしましょうかね？

放映は 11 月 29 日（木）22 時 55 分から NHK 総合『あなたが主役 50（フィフティ）ボイス』にて予定

施設公開を行いました



＜♪めでたあめでたあ〜の♪＞

今年も「サンフレンズを一人でも多くの地域住民に知っていただきたい」という思いで施設公開を実施しました。

サンフレンズ上井草は、ここ近年力を入れている PR 活動から準備が始まり、看板の設置やポスターの掲示とともに、約 5500 部のちらしを新聞折込広告に入れるなどして地域にお知らせしました。

施設公開初日はあいにくの雨となりましたが、フリーマーケットで掘り出し物を探すのにいそしむ買い物客で大賑いでした。そして、見学に来た人の目を引いたのが地元の「井草民謡保存会」の皆様。地域に伝わる「もちつきの唄」を唄いながら、輪になってついたもちを振舞い大盛況でした。

他の事業所も、ご利用者の作品展示や配食のパネル紹介をしたり、プログラム公開を行ったりしました。その他、学童クラブや新しいホームをつくる会など、地域関係者にもご協力をいただきながら模擬店などを出店しました。

今年で施設公開も 9 回目を迎え、初めの頃と比べると「サンフレンズ」という存在を、大分多くの方に知っていただけてきたように思われます。しかし、「知っている」ではなく、何かの時には「頼れる存在」となるべく、今後とも努めてまいりますので、応援の程よろしくお願い申し上げます。

そして、今年も多くの関係者や地域の皆様にご協力いただきました。ありがとうございました。

自衛消防審査会に参加しました 優勝！3位！敢闘賞！



<力いっぱい頑張ったからみんないい笑顔です>



<本番さながらの緊迫感でした>



<全部で19隊が参加しました>

昨年の東日本大震災を経験し防災への意識が高まる中、サンフレンズでは防災活動の取り組みの一つとして荻窪消防署主催の自衛消防審査会への参加を昨年度から再開しました。

昨年同様9月25日の自衛消防審査会にもサンフレンズ上井草から2隊、サンフレンズ善福寺から2隊の計4隊が参加しました。

お天気も心配されましたが雨にはならず、会場の井草の森公園には、さまざまな業務を行う事業所から、大勢の参加者が集まりました。

そして参加者は、自衛消防隊として、地震及び火災が発生してから消防隊が駆けつけ引き継ぐまでの一連の行動を競い合いました。甲乙つけがたい白熱戦でした。

その中でサンフレンズは、昨年の反省を踏まえ練習に取り組んだ結果、「優勝」と「三位」と「敢闘賞」をいただきました。これは各職員が意識を高く持ち、個々の仕事を行いながらも時間を作って練習に取り組んだ結果だと思っています。

しかしながら、今回はあくまで「訓練」の様子を審査していただいたに過ぎません。勿論、訓練の積み重ねが実際の場面で本領を発揮できるものと思っていますが、今回の審査会を今後に生かしていきたいと思います。

実際参加した職員は審査会に出たことにより、さらに防災への意識、知識、技術が向上をしたと感じています。また、もう一度参加したい、他の職員へ参加を勧めたい、との意見もありました。

多くの職員の参加が、サンフレンズのご利用者、ボランティアの方々、職員を守ることに繋がります。但し、職員だけでは高齢なご利用者の安全を必ず確保できるとは限りません。

日々防災を意識し、毎月防災訓練を行うことに加え、今後とも地域の皆さまと合同の防災訓練を重ね、協働し取り組み続けることによりサンフレンズ及び、地域の皆さまの安全を考えていきたいと思っております。

どうぞ宜しくお願いします。

法人への寄付金および物品等を賜り、厚く御礼を申し上げます。

2012年9月1日から10月31日までにご寄付をいただいた順に掲載しております。

《寄付金》 松尾廣高様・松山英夫様・藤井晨利様・サンフレンズ応援団様・八木澤瑞穂様・鈴木定雄様・四ッ橋昭子様・井口喜一様・上井草自治会様・ボランティアグループちぎり絵様・匿名希望1名(寄付金のお預かり後、2週間以内に本部事務局より領収書を郵送いたします。届かない場合はお手数ですが、本部事務局までご連絡お願いいたします。)

《物品等》 高須まゆみ様・太田正子様・村上辰枝様・星幸江様・橋爪美子様・大久保秀男様・石川有子様・吉本圭子様・大木瑞枝様・匿名希望9名

和田は20周年・サンフレンズ善福寺は5周年！

～あの頃の思いをいつまでも～

今年、事業開始から和田ふれあいの家が20周年、サンフレンズ善福寺が5周年を迎えました。前号に続き今号では、和田ふれあいの家所長の若山大地と、サンフレンズ善福寺施設長の菱木幸治よりご挨拶申し上げます。



＜20年前も今も笑顔は変わらぬままです＞

1992年に友愛の灯協会が杉並区の委託を受け、高齢者住宅(みどりの里)の生活協力員事業もあわせて、和田ふれあいの家をスタートしました。杉並・老後を良くする会・新しいホームをつくる会とともに、ふれあいの家ご利用者とみどりの里ご入居者をトータルでサポートしてきました。その後、介護保険がスタートし、サンフレンズが事業を引き継ぎました。

介護保険事業は激動の時代となりましたが、和田ふれあいの家が20周年を迎えるにあたり、諸先輩方の思いを引き継ぎ、これからも「サンフレンズでよかった」と思ってもらえるサービスを作り上げていきます。

和田ふれあいの家所長 若山大地

サンフレンズ善福寺も2007年8月の開設から、はや5周年を迎えることとなりました。これも、ご利用者やご家族、ボランティアの方々、そして

地域の皆様の温かいご支援とご協力の賜物と深く感謝し、お礼申し上げる次第です。

念願の、全室個室対応の施設として期待されるなか、様々な試行錯誤をしてきました。現場に入りご利用者に寄り添い、また一方では職員を育成しながらサービスの質の向上を目指してまいりました。

節目の年を迎え、我々職員一同これからも初心を忘れることなく地域に密着し皆様に愛される施設となるよう不断の努力をしておりますので、今後ともなお一層のお力添えを賜りますよう心からお願い申し上げます。

サンフレンズ善福寺施設長 菱木幸治



＜温かいご支援のなか行われた秋祭り＞

サンフレンズだより・ホームページへのご意見・ご感想をお寄せください

本部事務局 電話 : 03(3394)9833

FAX : 03(3394)9834

担当 : 河野・鳥羽・中山

ホームページアドレス

<http://www.3friends.or.jp>

E-mail アドレス

kamiigusa@3friends.or.jp